

一般演題

10月21日（金）

口 演

第4会場 10：30～11：20

01 群 「救急外来看護1」 座長：田村 富美子（聖路加国際病院）

0-1 救命救急センター看護師の成功体験と看護意欲との関連

井上 朋美（富山県立中央病院）

0-2 救急治療室における緊急心臓カテーテル検査への早期移行の実践

和田 尚美（藤枝市立総合病院）

0-3 緊急治療が必要な急性心筋梗塞患者の救急外来からカテーテル室までの思い

岩倉 由幸（医療法人涇仁会手稲涇仁会病院救命救急センター）

0-4 救急外来における看護記録にて有用とされる情報について 病棟看護師を対象とした調査結果より

海老原 美生（富永病院看護部外来）

0-5 2分間の効果的な胸骨圧迫を継続するためには～疲労が胸骨圧迫に及ぼす影響～

松本 郁子（社会医療法人財団池友会新小文字病院外来（ER））

第4会場 14：10～14：50

02 群 「救急外来看護2」 座長：西谷内 由美（大阪警察病院）

0-6 Dr CAR での活動におけるメディカルバッグの重要性

杉浦 敦史（健和会大手町病院救急外来）

0-7 救急センターにおける待機時の苦痛緩和の検討—ストレッチャー用体圧分散式マットレスを試用してみて—

栗本 恵美（大阪府済生会吹田病院）

0-8 アンダートリアージ ZERO に向けての取り組み

坂口 香保里（福岡和白病院看護部 ER）

0-9 スピーディーな救急看護を目指して～救急外来における看護記録の見直し～

山口 隆（大和徳洲会病院救急外来）

第4会場 14：55～15：35

03 群 「救急外来看護3」 座長：三宅 千鶴子（大阪府三島救命救急センター）

0-10 緊急入院した患者の心理・社会的側面の気がかりにおける看護介入

小島 光希（自治医科大学附属さいたま医療センター救急部）

0-11 脱法ドラッグによって上室性頻拍をきたした患者への対応

渡辺 悦子（前橋赤十字病院高度救命救急センター）

0-12 救急医療の社会的・倫理的問題及びクレームに対する看護師の認識と対応の現状（その1）

鈴木 里美（愛知医科大学）

- 0-13 救急医療の社会的・倫理的問題及びクレームに対する看護師の認識と対応の現状（その2）
鈴木 里美（愛知医科大学）

第4会場 15：40～16：10

- 04 群 「他職種との連携」 座長：江口 秀子（甲南女子大学）
- 0-14 救急救命センターとMSWの連携の必要性
浅井 磨智代（洛和会音羽病院）
- 0-15 アンケートから得た情報共有における看護師の役割
甲斐 由香（社会医療法人財団池友会新行橋病院脳神経外科病棟）
- 0-16 救命救急センターに入室する患者の早期リハビリテーションの認識調査～多職種が持つ認識調査～
武藤 博子（公立大学法人福島県立医科大学附属病院救命救急センター）

第5会場 10：30～11：10

- 05 群 「地域・院内連携、市民教育1」 座長：剣持 功（東海大学医学部付属病院）
- 0-17 香川県における小児救急医療の利用状況
祖父江 育子（広島大学大学院保健学研究科看護開発学講座）
- 0-18 小児の保護者に対する指導効果～救命救急センターの医療従事者の地域貢献を考える～
神谷 弥生（半田市立半田病院）
- 0-19 瓦礫の中のBLS教育－BLS教育による被災者支援－
大山 太（東海大学健康科学部）
- 0-20 高校生が「傷つく」という言葉から連想する外傷予防教室の開催テーマの検討
小島 善和（東海大学健康科学部看護学科）

第5会場 14：10～15：00

- 06 群 「災害看護1」 座長：松本 幸枝（榊原記念病院）
- 0-21 東日本大震災フェーズ2におけるA病院看護師の救護活動の分析と今後の課題
村田 千福（熊本赤十字病院看護部）
- 0-22 透析室における災害対策～緊急離脱の技術習得にむけて～
鴛海 久見子（社会医療法人財団地友会新小文字病院）
- 0-23 奄美大島豪雨災害を体験した看護師の災害3ヶ月後の健康調査－被災状況、救援活動の有無による比較－
門間 正子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）
- 0-24 奄美大島豪雨災害を体験した看護師のストレス反応＜第1報＞－災害3ヶ月後のアンケート調査から－
門間 正子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）
- 0-25 奄美大島豪雨災害を体験した看護師のストレス反応＜第2報＞－IES-R高得点者の分析から－
門間 正子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）

第5会場 15:05～15:55

07 群 「災害看護2」 座長：西尾 治美（日本大学医学部附属板橋病院）

0-26 東日本大震災における医療救護班の災害救護初動期活動と課題

井野 朋美（山口大学大学院医学系研究科）

0-27 東日本大震災における県庁内での医療調整本部の活動報告

染谷 泰子（JA とりで総合医療センター）

0-28 東日本大震災を経験して～被災地市中病院の活動～

松浦 誠史（宮城厚生協会坂総合病院）

0-29 東日本大震災と原発事故を経験したA病院救命救急センター看護師の心理状態の実態調査

新城 昭子（財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院）

0-30 東日本大震災被災地における救急看護認定看護師の活動報告

小野寺 淳（岩手県立大船渡病院救命救急センター）

第5会場 16:00～16:40

08 群 「トリアージ1」 座長：寺村 文恵（三重大学医学部附属病院）

0-31 救急外来でのトリアージへの取り組み～シミュレーション教育を導入して～

尾中 宏美（大津赤十字病院）

0-32 救急外来ウォークイン患者の実態調査とトリアージシステム構築に対する看護師の意識調査

丸林 美代子（国家公務員共済組合連合会浜の町病院）

0-33 勉強会による診察室におけるクラーク・看護助手のトリアージに関する認識の変化

小谷 恵子（康生会武田病院）

0-34 看護師による患者トリアージを行った効果と今後の課題～医師にアンケートを行って～

塚田 千春（館林厚生病院急患室）

第5会場 16:45～17:35

09 群 「トリアージ2」 座長：三上 剛人（吉田学園医療歯科専門学校）

0-35 トリアージナースの診療科判断までに要する時間の変化

小石 浩晴（東海大学医学部附属病院高度救命救急センター）

0-36 救命救急センターにおける小児トリアージ導入後の現状と今後の課題

佐伯 昌美（独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院救命救急センター）

0-37 適正な電話トリアージと相談者（本人・家族）についての検証

川口 なぎさ（大阪市立総合医療センター救命救急センター）

0-38 医師が考える救急外来トリアージの潜在的問題とトリアージナースに求める能力

西塔 依久美（武蔵野赤十字病院）

0-39 カナダのトリアージシステムに学ぶ ―トリアージ先進国であるカナダの施設見学を通して―

齋藤 剛（武蔵野赤十字病院救命救急センター）

第6会場 10:30～11:20

010 群 「看護教育1」 座長：多久和 善子（日本看護協会看護研修学校）

0-40 救急看護ケア能力向上を目指した ICLS アシスタントインストラクター育成のあり方

河合 正成（岐阜医療科学大学）

0-41 A 都道府県 ICLS コースにおけるインストラクションの課題

中野 香（学校法人吉田学園医療歯科専門学校救急救命学科）

0-42 フライトナース志願を阻害する要因について

小林 育代（和歌山県立医科大学付属病院）

0-43 外傷患者対応時の効果的な教育プログラムの検討～面接調査から導き出された方法と課題～

小林 英貴（千葉県救急医療センター）

0-44 迅速な急変時初動対応を目指した院内教育の現状と今後の課題

高橋 安里（社会福祉法人大阪府済生会吹田病院看護部）

第6会場 14:10～15:00

011 群 「看護教育2」 座長：片岡 秋子（武蔵野大学）

0-45 看護師対象 ICLS コース運営の現状と課題 ―看護師教育に焦点をあてて―

小林 邦子（東京女子医科大学病院救命救急センター）

0-46 BLS 資格を取得後正確な胸骨圧迫手技は維持できているのか？

成田 亜紀子（国立大学法人弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター）

0-47 救急領域におけるジェネラリストの育成

土屋 志保（北里大学病院救命救急センター）

0-48 SHELL を用いたレポートにおける事故防止対策について～教育方法の見直し～

奥畑 智子（川崎医科大学附属病院高度救命救急センター）

0-49 救命救急センター設立時における看護師教育について～経過を振り返り今後の課題を考える～

田中 敏幸（兵庫県立加古川医療センター初療）

第6会場 15:05～15:55

012 群 「看護教育3」 座長：大山 太（東海大学）

0-50 気管挿管の準備と介助における教育方法の検討（第1報）

村田 好生（金沢医科大学病院集中治療センター・救急医療センター）

0-51 心停止回避コース INARS の学習効果に対する検討

白戸 幸子（富士市立中央病院）

0-52 救急外来トリアージにおける症状アセスメント研修の評価

喜瀬 裕美（武蔵野赤十字病院救命救急センター）

0-53 看護学学士課程学生における生命の危機状況にある成人の看護演習の評価と課題

段ノ上 秀雄（自治医科大学看護学部）

0-54 救命救急センター看護師のクリニカルラダーレベルと学習ニード調査

山村 多希子（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

第6会場 16:00～16:40

013群 「看護教育4」 座長：高原 美樹子（福井県立大学）

- 0-55 クリティカルケア実習におけるフィジカルアセスメントの実態と事前演習の評価
福島 綾子（日本赤十字九州国際看護大学）
- 0-56 フィジカルアセスメントの実施状況と事前演習の評価ー急性期実習とクリティカルケア実習の比較ー
濱元 淳子（日本赤十字九州国際看護大学）
- 0-57 ME 機器習熟度向上に向けた取り組み～動画教材の有効性～
西條 裕彬（石巻赤十字病院）
- 0-58 臓器移植認定病院に勤務する看護師の意識調査 研修受講前後の認識の変化
吉原 郁子（鹿児島市立病院救命救急センター）
- 0-59 欠番

第6会場 16:45～17:25

014群 「看護教育5」 座長：千明 政好（上武大学）

- 0-60 救急看護師教育システム開発に必要な救急隊との連携ー社会的・倫理的問題に対する救急隊の認識と現状ー
前田 貴彦（三重県立看護大学）
- 0-61 救急看護師教育システム開発に必要な救急隊との連携ー社会的・倫理的問題に対する救急隊の対応と教育ー
上杉 佑也（国立病院機構三重病院）
- 0-62 看護師の心臓血管術後の疑似体験を基にした看護ケアの検討
三宅 美子（金沢大学附属病院）
- 0-63 高度救命センターにおけるインフォームド Consent 時の看護師の家族支援の現状と課題
境 加奈子（兵庫県災害医療センター）

ポスター

第7会場 15:05～15:55

P1群 「看護教育・体制1」 座長：川谷 陽子（愛知医科大学病院）

- P-1 系統立てた院内災害訓練の取り組み
邨上 忍（鳥取大学医学部附属病院救命救急センター）
- P-2 院内研修で AHAーBLSヘルスケアプロバイダーコースを受講した看護師の意識変化について
迫田 典子（昭和大学病院）
- P-3 CPR 市民講座受講者の傾向と考察
田中 絵美（財団法人田附興風会医学研究所北野病院）
- P-4 看護系大学生の心肺蘇生法技術の現状と技術演習による意識の変化
高井 小与実（昭和大学病院）
- P-5 「看護系大学生の心肺蘇生法技術についてー経験・意識・知識の調査からー」
勅使河原 俊子（東海大学医学部附属病院）

第7会場 15:05～15:55

P2 群 「重症患者管理」 座長：京極 多歌子（大阪府済生会千里病院）

P-6 右空間無視ならびに廃用性嚥下障害を併発した患者に対するケアとその効果

林田 由加里（医療法人桜橋渡辺病院）

P-7 重症心不全・視力障害を併発した事例に対する床上運動の効果

竹内 実希（医療法人桜橋渡辺病院）

P-8 救命救急センターにおける褥瘡予防への取り組み～独自のマットレス選択表を導入して～

細谷 真由美（浜松医療センター救命救急センター）

P-9 看護師はどのような患者状態の時に DVT 予防策の開始、変更をしているのか

伊藤 杏子（聖マリアンナ医科大学病院救命救急センター）

P-10 イレウス術後、急性心筋梗塞を発症したが発覚が遅延した症例を振り返る

井上 みゆき（新日鐵八幡記念病院看護部）

第7会場 16:05～16:45

P3 群 「災害看護」 座長：富岡 小百合（大阪府立中河内救命救急センター）

P-11 災害急性期における看護師の多職種との連携に関連する要因

野島 敬祐（宝塚大学看護学部）

P-12 奄美大島豪雨災害を体験した看護師の蓄積的疲労の実態（第1報）—災害3カ月後の調査から—

中井 夏子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）

P-13 奄美大島豪雨災害を体験した看護師の蓄積的疲労の実態（第2報）—被災状況、救援活動の有無による比較—

中井 夏子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）

P-14 東日本大震災における DMAT と救護所内での DMAT 隊員の役割

楠本 真紀（大阪市立総合医療センター救命救急センター）

第7会場 16:05～17:05

P4 群 「その他」 座長：河合 正成（岐阜医療科学大学）

P-15 熟練看護師による CPA 患者の家族に対する援助技術に関する研究

佐竹 陽子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程）

P-16 祖父の心筋梗塞発症により心理的危機状況を経験した看護学生の看護観

大山 公華（三重県立総合医療センター）

P-17 RSBI を指標としたケアが奏効した人工呼吸器装着事例

金 淳代（医療法人桜橋渡辺病院）

P-18 循環器系病院における緊急外来患者滞在時間とその要因に関する調査

荒地 賢（国立循環器病研究センター CCU 病棟緊急外来部）

P-19 単独型三次救命救急センターに病院機能評価認定取得が与えた影響

三宅 千鶴子（大阪府三島救命救急センター）

P-20 マレーシアの看護師の役割

城戸口 有香（Sime Darby Medical Centre）